

令和6年度 【ダイジェスト版】
全国学力・学習状況調査における香美町の調査結果のまとめ（概要）

1 調査の概要

香美町教育委員会

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日 令和6年4月18日（木）

(3) 調査実施校数及び人数

・小学校6年生： 8校 108人

・中学校3年生： 3校 104人

(4) 調査内容

① 教科に関する調査

〔国語、算数・数学〕

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

＊オンライン方式

2 本町の状況

(1) <教科に関する調査の状況>

① 小学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較 *1	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度 *2	同程度
算数	同程度	同程度

※1 全国(公立)、兵庫県(公立)とは、参加した国公立学校のうち、公立学校を対象としていることを示す。

※2 「同程度」とは全国、兵庫県との比較で平均正答率の±5ポイント範囲内を示す。

(2) <教科ごとの状況> (良好と考えられる項目 及び課題と考えられる項目 一部抜粋)

【国語】

【小学校】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことが一部できる。
- 人物像を具体的に想像することができる。
- ▼ 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問いに課題がある。



【算数】

- 直方体の見取図について理解し、かくことができる。
- 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。
- ▼ 速さが一定であることを基に道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問いに課題がある。
- ▼ 球の直径の長さで立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問いに課題がある。

【国語】

【中学校】

- 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる。
- 行書の特徴を理解している。
- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができている。
- ▼ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題に課題がある。

【数学】

- 等式を目的に応じて変形することができる。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。
- グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。
- ▼ 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことに課題がある。
- ▼ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

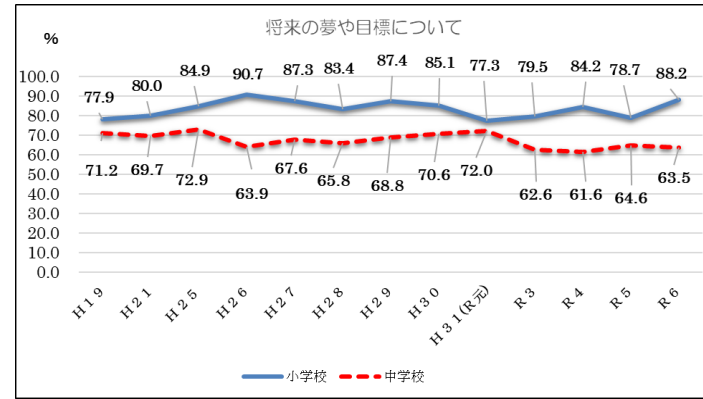


② 中学校に関する状況

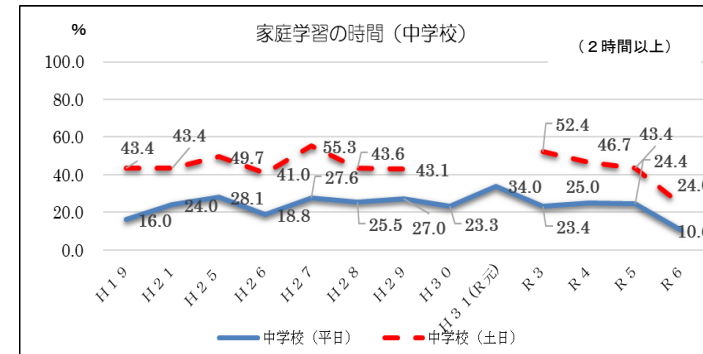
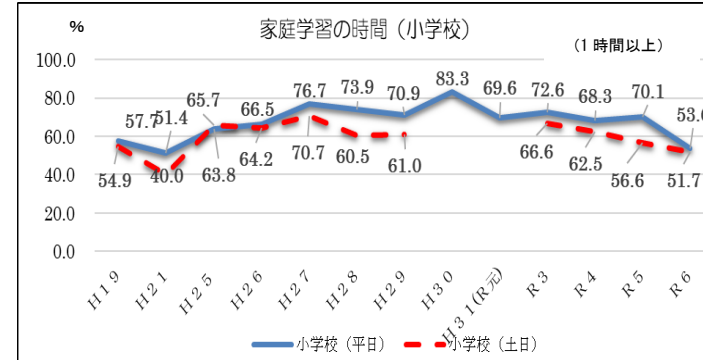
教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度	同程度
数学	同程度	同程度

(3) <児童生徒質問に関する調査の状況> (一部抜粋)

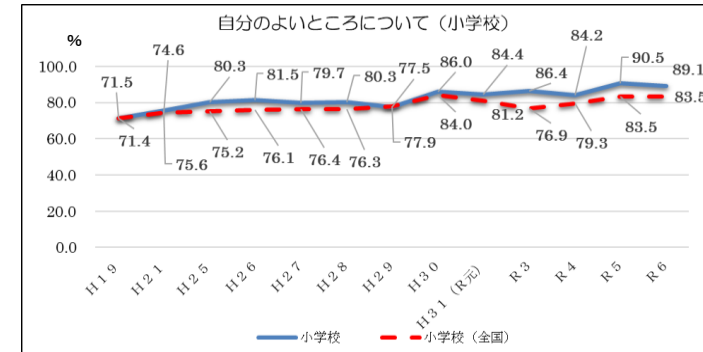
① 【将来の夢や目標について】 (肯定的な回答) %



② 【家庭学習について】



③ 【自己有用感について】 (肯定的な回答)



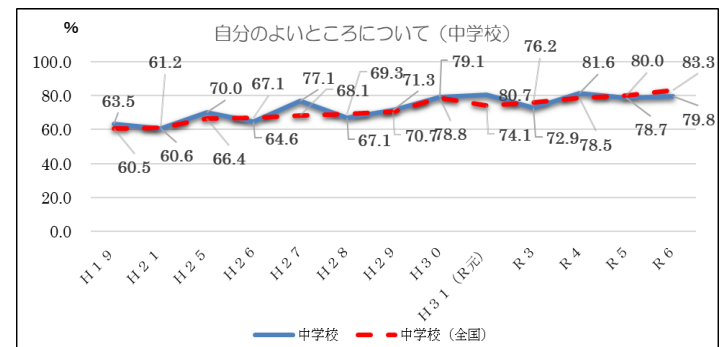
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では昨年度より10%以上増加している。一方、生徒ではやや減少し、近年60%台で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

- 児童の家庭学習時間は平日・土日とも減少しており、1時間以上学習している児童は、50%台となった。
- 生徒では、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している割合は、昨年度と比較して半減しており、過去最低の20%台となった。また、土日に2時間以上学習している生徒も半減しており10%台となった。
- テレビゲームの時間やSNS/動画視聴の時間の見直しのため「家庭学習のきまり」による啓発など、家庭学習の習慣化のため校区内の小学校・中学校が家庭と連携して取り組むことが大切である。

(参考)「R6 児童生徒質問」より

【平日】テレビゲームの時間	児童	生徒
1時間以上	78.1%	72.2%
2時間以上	43.6%	38.5%

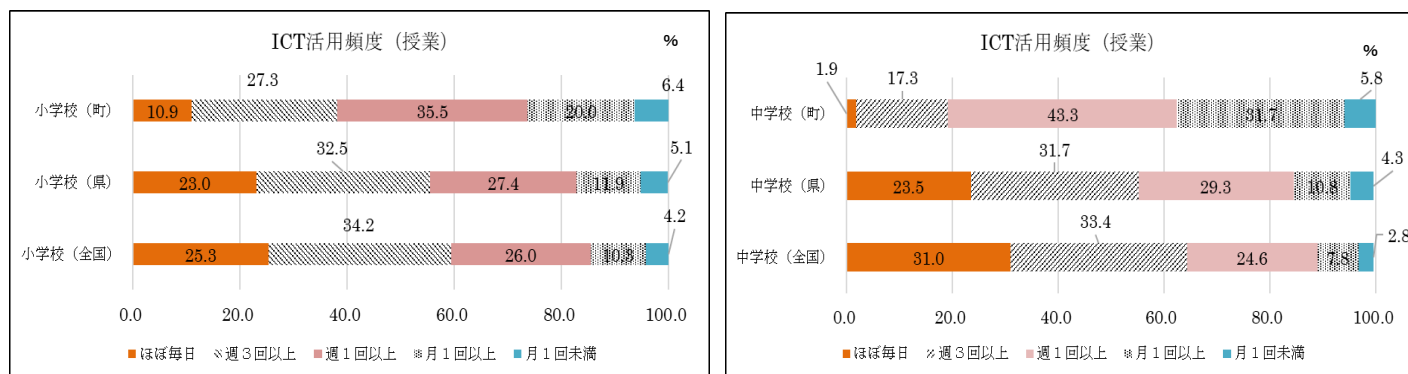
【平日】SNS/動画の時間	児童	生徒
1時間以上	43.6%	78.0%
2時間以上	24.5%	44.3%



- 児童は全国と比較して自己有用感を抱いている割合は6%程度高い。一方生徒は、前年度より微増しているが、全国を下回っている。
- 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。
- 今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。
- 香美町では、自己肯定感を高めることに取り組んでいるが、今後も幼児期の「ほめる」「認める」指導を徹底し、その成長を保護者と共有することで自尊感情を育てる。

(4) <PC・タブレットなどのICT機器の活用等> (一部抜粋)

【質問事項】 5年生まで〔中学1, 2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

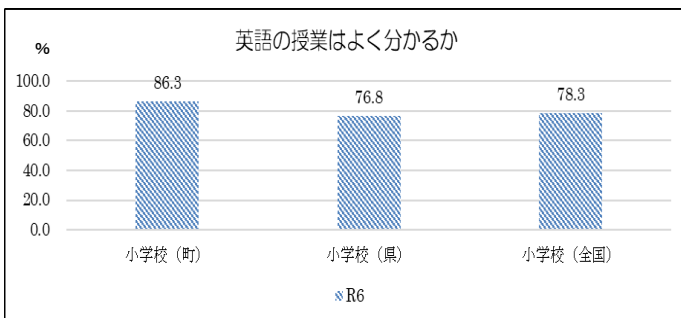
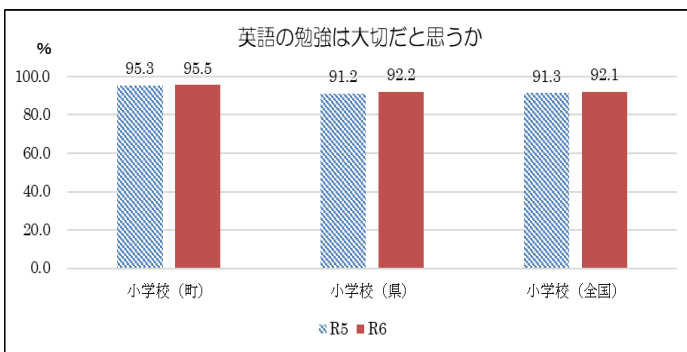
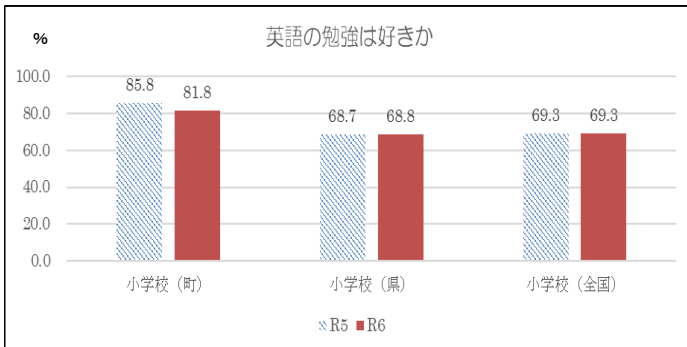


〔分析及び考察〕

- 授業でのPC・タブレットの活用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。特に中学校においては、その差が大きい。
- 今後とも、授業の指導方法の工夫改善に向けて、PC・タブレットの効果的な活用の研修と実践を積むことが求められる。



(5) <英語に関する状況> (一部抜粋) (肯定的な回答)

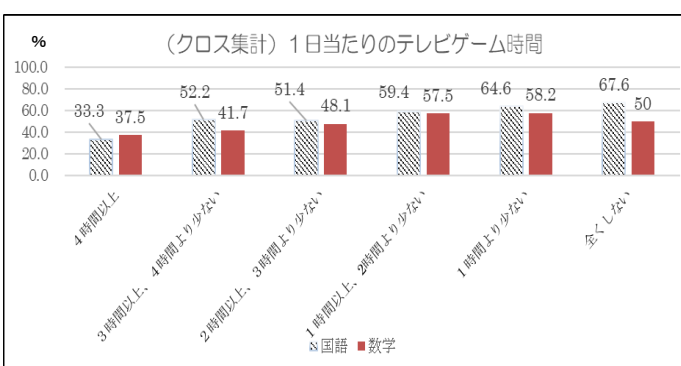
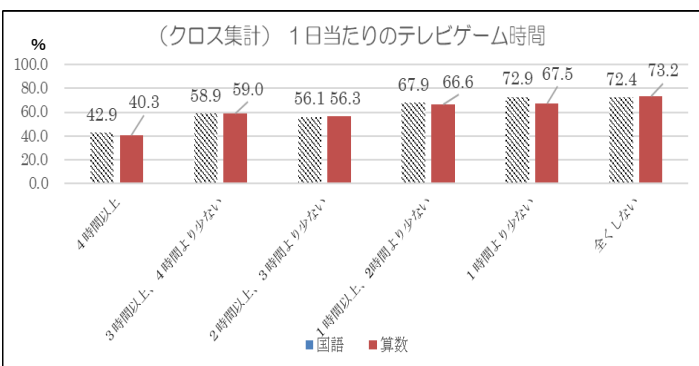


*〔分析及び考察〕

- 「英語の勉強は好きか」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は、香美町は県・全国と比較すると高い。この傾向は昨年度と同様である。
- 「英語の勉強は大切だと思うか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は香美町は県・全国と比較すると少し高く、昨年度より微増している。
- 「英語の授業はよく分かる」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は、香美町は県・全国と比較すると高い。

(6) <児童生徒質問と学力のクロス分析から> (一部抜粋)

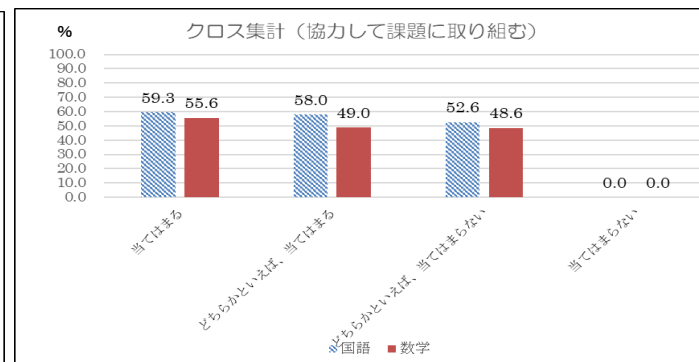
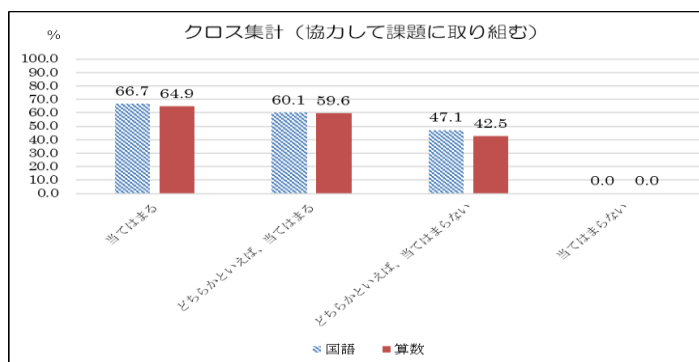
【質問事項】 普段 (月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム (コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む) をしますか。



〔分析及び考察〕

- 児童生徒とも1日当たりのテレビゲーム時間と国語、算数・数学の平均正答率との間に有意な相関関係が認められ、テレビゲームの時間が多いほど平均正答率は低くなる傾向にある。

【質問事項】 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



〔分析及び考察〕

- 「お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の回答と教科の平均正答率の間に相関関係が見られ、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が高い。

3 今後の取組の方向性について

学校では 魅力ある授業づくりを！

<授業実践のポイント>

- 国語科を要しつつ、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
- 「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
- 学習者主体の視点を強く意識し、指導形態や指導方法の工夫改善を図るとともに、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
- 全児童生徒に配備されたタブレットをはじめ様々なICT機器の活用や、体験的に学ぶ活動などを積極的に取り入れる。
- 「ほめる指導」、「認める指導」を大切にする。等
- 個人カルテの活用などにより、一人もつまずきを見逃さない個別指導を推進する

家庭、地域では

家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点

地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう！

<実践のポイント>

- 規律ある生活 (早寝、早起き、朝ごはん等)、家庭内での対話の習慣化
- 家庭学習の習慣化 (「ながら勉強ゼロ」など)
- 家庭で読書等に親しむ環境づくり (「親子で読書」、「新聞を読むこと」の習慣化など)
- スマートフォン・タブレットなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 努力や最後までやり抜くことの大切さを伝える。
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事やボランティア活動などへの参加を通した「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援 等

指導力を高め合う組織づくりと学びの連続性のある取組を！

<実践のポイント>

- 教職員が学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「めざす子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを図る。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

小規模校ならではの特色を生かした取組を！

<実践のポイント>

- オンラインによる研修なども考慮しつつ、事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
- これまで蓄積された本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での情報交換や協議を踏まえ、今後の小学校再編を視野に入れた取組の充実を図る。

行政では 学校・家庭・地域への支援を！

<実践のポイント>

- 各種研修会の実施による教員や各種指導者の指導力等向上への支援
- 町ホームページ、町広報誌などによる情報提供
- 各種事業の実施 (ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、「町じゅう図書館」活動など)
- 学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実 等